

アジア文化会館 秋祭りに参加して

笠原 祐子

2回目の参加となるアジア文化会館秋祭りに、今年も参加させて頂きました。去年はボランティアへの参加が初めてということもあり、この活動がとても新鮮に感じられ、次回も参加してみたいと思いました。この活動の中で、普段出会うことのできない人やものに出会えたことも、自分自身にとってよい刺激でした。

当日は生憎の雨で、お天気に恵まれた昨年とは違い屋内での開催となりました。屋内での開催がどのようなになるのか想像がつかず、少し不安な気持ちで会場へ行きました。2回目の参加者ということもあり、ブース内に置く日韓アジア基金の国内活動のパネル作成作業を率先させて頂くことになりました。この作業は今年が初めてだったのですが、みなさんのアイデアと助けを借り、いいものを作ることができました。

普段はこのようなことを職場でしていないので、協力して何かを作ることの楽しさが、新鮮に感じられました。



秋祭りの開始時刻を過ぎると、雨天にも関わらずたくさんの方が来場されました。今年

は文化会館の教室ということもあり、去年のように道行く人に気軽に声をかけることが難しかったのですが、それでも興味を持って下さる方がたくさんいらっしゃいました。中でお茶を飲みたい方もいらっしゃったので、いすを並べて休んでいただくこともできました。スタッフ全員でお茶作り、呼びかけ、活動の紹介に取り組みました。また、昨年同様、お盆にお茶を載せ、募金箱を首にかけ、外回りに行くスタッフの協力もあり、ブースにいる留学生、足を運んで頂けていない方にもお茶をお配りすることができ、募金もして頂くことができました。



今回のボランティアで感じたことは、自分から行動することの大切さです。お茶を入れること一つでも、「熱いので気をつけて下さい」という一言がその人の耳に届くことで、その人との間の空気がとても気持ちよくなること。それはその瞬間だけでなく、こうしてそのときを思い出している今、尚更そう思えるのです。きっとこのような時間を自分たちの小さな心がけで作出し、積み重ねて行くことは、ボランティアで得られる何より大切なものだと思います。

秋祭りが終わり、駅に向かうときは思った以上の疲れを感じました。屋外の活動だった去年ほど動いていないので不思議だったのですが、今年は去年よりずっと人と接する時間が長かったことに気付きました。でも、その疲れはとても気持ちよく感じられ、うれしい気持ちで会場を後にしました。